

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質							3.0
Q1 室内環境			0.30				3.2		
1 音環境		3.0	0.15				3.0		
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40						
1.2 遮音		3.0	0.40						
1 開口部遮音性能		3.0	0.60						
2 界壁遮音性能		3.0	0.40						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音		3.0	0.20						
2 温熱環境		3.1	0.35				3.1		
2.1 室温制御		3.2	0.50						
1 室温		3.0	0.38						
2 外皮性能	PC板外壁 U=0.67、屋根 U=0.49、窓 SC:0.31、U=1.7	4.0	0.25						
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38						
2.2 湿度制御		3.0	0.20						
2.3 空調方式		3.0	0.30						
3 光・視環境		2.4	0.25				2.4		
3.1 昼光利用		1.8	0.30						
1 昼光率		1.0	0.60						
2 方位別開口									
3 昼光利用設備		3.0	0.40						
3.2 グレア対策		3.0	0.30						
1 昼光制御		3.0	1.00						
3.3 照度		2.0	0.15						
3.4 照明制御		3.0	0.25						
4 空気環境		4.5	0.25				4.5		
4.1 発生源対策		5.0	0.50						
1 化学汚染物質	内装のすべてを規制対象外材料(F☆☆☆☆)としている。さらに接着剤はホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ないものを採用している。	5.0	1.00						
4.2 換気		3.3	0.30						
1 換気量		3.0	0.33						
2 自然換気性能		3.0	0.33						
3 取り入れ外気への配慮	隣棟の排気なし、排気ファンと上下で隔離確保	4.0	0.33						
4.3 運用管理		5.0	0.20						
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御	建物内禁煙としている	5.0	1.00						
Q2 サービス性能			0.30				3.6		
1 機能性		2.8	0.40				2.8		
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40						
1 広さ・収納性	1人当たりの執務スペース12㎡以上。	5.0	0.33						
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33						
3 バリアフリー計画		3.0	0.33						
1.2 心理性・快適性		2.0	0.30						
1 広さ感・景観		1.0	0.33						
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33						
3 内装計画		3.0	0.33						
1.3 維持管理		3.5	0.30						
1 維持管理に配慮した設計	内装材は防汚性の高い仕上げとし、外装は防錆性の高い部材を使用。	4.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50						
2 耐用性・信頼性		3.7	0.30				3.7		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	基準法に定められた25%増の耐震性を有する。	4.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		3.9	0.30						
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	PC板外壁の採用	5.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	使用目的に合わせより耐久性の高い仕上げ材料とした。 床:ビニルシート(15年)塗床(15年) 壁:石こうボード下地塗装仕上げ(30年) 天井:ロックウール化粧吸音板、化粧ケイカル板、ケイカル板下地塗装仕上げ(30年)	4.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外・熱排気はガルバリウム(ラッキング除く)、内部結露排水管あり	5.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	冷水:C、温水:C、冷却水:C(いずれも塩ビライニング鋼管)	4.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20						
2.4 信頼性		3.2	0.20						
1 空調・換気設備	クリーンルーム、一般別系統、空調方式毎に別系統	4.0	0.20						
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20						
3 電気設備		3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法	耐震クラスAで計画。	4.0	0.20						
5 通信・情報設備		3.0	0.20						

3 対応性・更新性			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	各階高5.7m以上確保。	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	コアとなる部分を室内外周部に配置し、将来更新やレイアウト変更へ対応しやすい計画としている。壁長さ比0.15。	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		屋上部を含めほぼ4500N/m ² 以上で計画。	5.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			4.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	屋外配管、クリーンルーム天井内スペース大	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	天井裏にて幹線ルート確保	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	天井裏にて幹線ルート確保	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	屋上設備架台にメンテナンスルート確保	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	屋上にバックアップ用のスペースを確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI、BPI _m = 0.88	4.2	0.20	-	-	4.2
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI _m] : 0.67	4.3	0.50	-	-	4.3
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	クラウドBEMSの使用	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		自動水栓、擬音装置	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内壁・軽量鉄骨下地ボード壁→躯体から容易に分別可能。 配管配線が躯体・仕上げ材に埋め込まれていない。	5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	炭化水素系発泡剤採用のノンフロン断熱材を使用。	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO ₂ 排出率84%	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		見付け面積比30%程度、隣棟間隔指標0.65、屋根面高反射材の採用など	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	通勤時間帯のシャトルバスの運行、荷捌き用駐車スペースの確保、社員の自動車利用は原則認めていない。	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	